



# 中期計画の取組み 2016



KWANSEI GAKUIN  
New Strategic Plan 2009-2018

April, 2016

2015年度は高等部が男女共学となり、大学の理工学部の新学科を増設するなど、新しい動きと共に、スタートを切りました。それぞれの着実な歩みを大過なく進めることが出来ましたことは、関西学院に係わる全ての人たちのご協力があったの事と誇りに思います。

一昨年、大学がスーパーグローバル大学創成支援(以下SGU)に採択され、高等部もスーパーグローバルハイスクール(以下SGH)に指定されました。昨年は千里国際高等部がSGHに指定され、関西学院全体が揃って国際化、グローバル化への環境を整えるチャンスを手に入れました。将来に向けて飛躍すべきチャンスの到来が2016年であると考えています。

時代は、素晴らしい未来が予測されるものから、貧困や紛争などの困難まで、様々な事象が混沌としています。共通していることは、いずれも世界全体が連鎖し、同時進行していることです。一部の人たちが国際的に通じていれば済む時代ではなく、全ての人たちが無関係でない時代になったことを理解しなければなりません。

そのうえで、関西学院に集う全ての人たちが、改めて「スクールモットー“Mastery for Service”を体現する世界市民」をめざす人間像として強く意識せねばなりません。

2016年度は、SGUとSGHの取り組みを中期計画の中核に据えつつ、創立150周年を見据えたアクションプランの検討を進め、SGU及びSGHの展開に繋げていきたいと考えています。

創立150周年へ向けた、関西学院の教育、研究、社会貢献活動にご理解とご協力を頂けましたら幸いです。



理事長 宮原 明



# 新基本構想

関西学院は、2009年を起点として10年後を見据えた「新基本構想」を策定しました。新基本構想では、長い歴史の中で共有してきたミッション(使命)とスクールモットー“Mastery for Service”の現代的意味を再確認した上で、10年間(2009～2018)で到達すべき目標を6つのビジョンとして決めました。

2014年度から後半の5年がスタートしましたが、学院をとりまく環境の変化、「スーパーグローバル大学創成支援」への採択を受け、中期計画の見直しを実施しました。

2016年度も引き続き「スーパーグローバル大学創成支援」や「スーパーグローバルハイスクール」を中核として推進します。適切にPDCAサイクルを回し、計画のプロセスや進捗状況など積極的な情報公開に取り組んで参ります。



## Mission Statement

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さを持って社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命とします。

## School Motto “Mastery for Service”

関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”は、「奉仕のための練達」と訳され、隣人・社会・世界に仕えるため、自らを鍛えるという関学人のあり方を示しています。

※“Mastery for Service”は、C.J.L. ベーツ第4代院長が1912年に高等学部長に就任した際に提唱したもので、その後、関西学院全体のスクールモットーになりました。

# 中期計画2016

## 大学

急速に進展するグローバル化に対応するため、「スーパーグローバル大学創成支援(SGU)」事業を中心に改革を進めます。このほか、教員と学生が双方向的に授業を進めるアクティブラーニングや、今後の大学入試改革を見据えた高大連携など、昨今の政策的課題にも対応する取組みを推進して参ります。

### 国際化関連施策

#### 「スーパーグローバル大学創成支援(SGU)」関連施策



ダブルチャレンジ  
制度

P.4に詳細

国際プログラムの  
飛躍的な拡充

国連・国際機関への  
ゲートウェイ創設

国際通用性のある  
質保証システム  
の構築

ガバナンス改革  
による総合的  
マネジメント実現

経済社会の発展を  
牽引するグローバル  
人材育成支援  
(2012年度文部科学省採択)

#### その他国際化施策

大学の世界展開力強化事業  
(2011年度文部科学省採択)

国連および国際機関・  
国際NPO/NGOとの連携強化

### 大学の戦略的施策

全学的アクティブラーニングの推進



高大接続と連携の推進



ボランティア活動支援センターの設置

外資系企業による授業

東京オリンピック・パラリンピック・スペシャルオリンピックスへの参画

アントレプレナー育成

## 各学校

大学以外の各学校がそれぞれの特色を活かした施策を推進して参ります。

### 初等部

● 英語力の向上

等



### 中学部

● ICTを活用した教育環境の整備  
充実  
● 国際交流コーディネータの配置



### 高等部

● グローバル人材の育成と国際理解教育の充実  
● 教育の活性化につながるICT環境の整備

等

#### 千里国際 中等部・高等部



● 日本語IB※1科目の実施  
● 帰国生受験資格の緩和、随時入試制度の一部導入

等

#### 大阪インターナショナル スクール

● IB※1プログラム実施のための教員研修増強  
● Global Futures Program※2の推進  
● 生徒募集活動強化

等



#### 聖和短期大学

● 入試制度の見直し

等



#### 関西学院幼稚園 ※3

● 子ども・子育て支援制度への対応



※1 IB:International Baccalaureate(国際バカロレア)とは、国際バカロレア機構(本部ジュネーブ)が提供する国際的な教育プログラムです。  
※2 大阪インターナショナルスクールが世界各国から高校生を受け入れる制度です。  
※3 2016年4月1日より、聖和幼稚園は関西学院幼稚園に名称変更しました。

## 法人・大学

引き続き学院全体としてミッションの浸透に努めるべく、自校教育プログラム、インクルーシブ・コミュニティ促進、K.G. リーダーシッププログラムを進めます。また、神戸三田キャンパス(KSC)との連携を強化し、法人と大学が一体となった施策を進めます。

ミッションの  
学内浸透施策の推進

KSC戦略本部の継続運営と  
KSC事務機能の強化

交通アクセス整備

# SGU関連施策について

## 「スーパーグローバル大学創成支援 (SGU)」に採択

2014年9月、平成26年度文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」(タイプB: グローバル化牽引型)に、関西学院大学の構想「国際性豊かな学術交流の母港『グローバル・アカデミック・ポート』の構築」が採択されました。

## ダブルチャレンジ制度

「グローバル・アカデミック・ポート」構想の目玉は、新たな教育OS (Operating System) として導入する「ダブルチャレンジ制度」です。この制度によって、全学生が自身の所属する学部や専攻の学び(ホームチャレンジ)に加えて、異なるものとの出会いの場「アウェイチャレンジ」に挑戦します。アウェイチャレンジには留学等の国際交流プログラムに参加する「インターナショナル」、社会での実践型学習をともなう「ハンズオン・ラーニング」、他学部の体系的なカリキュラムを履修する「副専攻」の3プログラムがあります。

## 「グローバル・アカデミック・ポート」の構築



# SGU施策一覧(43施策)

構想調書に基づく新たな施策、達成すべき指標を整理し、学院の中期計画に位置づけました。

ダブルチャレンジ	1	ダブルチャレンジ制度の構築	英語教育 英語教育の飛躍的充実 TOEFL®対策講座の実施 英語インテンシブ・プログラムの1年生4月より実施			
		インターナショナルプログラム(派遣・融合)				
		ハンズオン・ラーニング・プログラム(実践型学習)				
		副専攻プログラム				
	国際交流の飛躍的拡大	2	国際交流の飛躍的拡大	3 国連・国際機関等の職員を輩出する包括プログラム 「国連・外交コース」(大学院)の創設 「国連・外交プログラム」(学部)の創設		
			派遣		協定校への海外派遣数2,500人	
					学部・研究科での派遣プログラムの開発	
		留学の事前・事後教育の充実 留学奨学金制度の整備				
		受入	4		受入	4 質保証 国際通用性のある教育の質保証システムの構築 IR機能の充実と推進 ポートフォリオの開発
					受入留学生数1,500人	
受入短期プログラムの拡大						
学部・研究科での受入プログラム開発						
留学生のための日本語教育等の強化						
海外での入試の実施						
海外指定校推薦入試制度の拡大						
混住型国際教育寮の建設・拡充						
国際交流の環境整備	5	クォーター科目の拡大	5 ガバナンス改革による総合的マネジメントの実現 グローバル化推進本部およびグローバル化推進室の設置 総合企画部の設置 中期総合経営計画の策定			
		シラバスの改良				
		ナンバリングの拡充				
		関学フェロー制度の導入				
		海外拠点の拡大				
		ジョイントディグリー(JD)の開発とダブルディグリー(DD)の拡充				
		英語による授業科目(専門・専門導入科目)の拡大				
英語のみで卒業・修了できるコースの拡大						
6	外国語による情報発信の強化(SNS英語化、英語動画アーカイブ化、多言語化)	6 「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」				
	7		その他	7 その他 「グローバルカレッジ(仮称)」の建設 5年一貫制(学士+修士)全学部導入 入試制度の検討(IB関連、TOEFL®関連等) 人事制度の改革 大学院GPAの導入 アカデミックアドバイザー制度 ティーチング・アシスタント(TA) 新たな研修プログラムの開発 授業評価調査票の英訳		
			その他			

TOEIC及びTOEFLはエデュケーション・テスト・サービス(ETS)の登録商標です。この印刷物はETSの検討を受けまたはその承認を得たものではありません。

# SGU関連施策の取組み

## 国連・国際機関の職員を輩出する包括プログラム

### 「国連・外交コース」(大学院)、「国連・外交プログラム」(学部)の創設

#### 国連・国際機関へのゲートウェイを構築

国連・国際機関で働く職員は、持続可能な国際社会の実現に向けて、貧困、紛争、難民問題、教育格差、環境破壊など地球上で起こるさまざまな課題と対峙しています。そこでは、専門的な知識・スキルを総動員し、粘り強く課題解決にあたる力が求められます。

国連・国際機関の職員となるためには、高度な外国語運用能力の他、特定分野の高い専門性(大学院修士レベル以上)とそれに関連する一定期間の実務経験が必要となります。本学では、高大接続から大学院、そして卒業・修了後まで通貫した日本初の包括的なプログラムで、国連・国際機関の職員、外交官、国際NGO職員等、「世界の公共分野で活躍するグローバルリーダー」を育成します。

#### 国連・国際機関、外交分野への人材を輩出する包括プログラム 世界の公共分野で活躍するグローバルリーダーを育成する



#### プログラムをリードする実務家教員

日本人で初めて国連職員となり、国連事務次長も務めた明石康氏が2016年4月に本学のSGU招聘客員教授に就任。このほか、前国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)事務局次長の村田俊一教授、前国連児童基金(UNICEF)カザフスタン事務所代表の久木田純教授も新たに就任しています。元ドイツ大使・国連日本政府代表部大使の神余隆博副学長を「国連・外交タスクフォース」リーダーに、国連・外交の第一線で活躍してきた実務家教員を中心に構想を実現していきます。

#### 関西学院 世界市民明石塾(高校生対象) 2016年、日本の国連加盟60周年の夏スタート

明石康 SGU 招聘客員教授を塾長に、国連職員や外交官等、国際公共分野で活躍できるグローバルリーダーをめざす高校生を対象に開設します。国際的視野と主体的な課題解決能力を涵養します。

対象：スーパーグローバルハイスクール(SGH)、SGH アソシエイト指定校、および関西学院の院内校、継続校、教育連携校等で学ぶ高校生 20～30人程度  
実施期間：2016年8月8日(月)～10日(水)(2泊3日)  
会場：関西学院西宮上ヶ原キャンパスおよび関西学院千刈キャンパス  
問い合わせ：0798-54-6410(高大接続センター)

#### 大学院「国連・外交コース」

国連・外交の第一線で活躍してきた実務家教員の招聘・採用



明石康・元国連事務次長  
2016年4月1日 SGU招聘客員教授就任



村田俊一・前国連アジア太平洋経済社会委員会事務局次長  
2016年4月1日 総合政策学部教授就任



久木田純・前国連児童基金(UNICEF)カザフスタン事務所代表  
2015年9月1日 SGU招聘客員教授就任



神余隆博・副学長(元ドイツ大使・国連日本政府代表部大使)  
「国連・外交タスクフォース」リーダーとして構想実現を牽引

## JETROとの協定締結

2015年12月1日、関西学院大学と独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)は包括的な連携推進に関する協定を締結しました。JETROが大学と包括連携協定を締結するのは3例目で、私立大学では初めてとなります。

世界54ヵ国、73海外拠点を持つJETROとの連携協力のもと、グローバルに通用する人材の育成や国際的なネットワークの構築をめざします。

(写真)本学とJETROの包括連携協定書調印式の様子(左から北川浩伸・JETROサービス産業部長、石毛博行・JETRO理事長、村田治学長、高林喜久生・産業研究所長)



# 国際交流の飛躍的拡大

## 英語教育

### 英語教育の飛躍的拡充

#### 徹底した習熟度別学習の導入

入学直後から学生個々のレベルに応じた英語教育を行うため、入学前のオンラインプレースメントテストを2017年度入学生から全学的に導入します。これにより得られる英語能力スコアをもとに、全学部での習熟度別クラス編成を進めます。さらに、各学生の学習到達度合を測る目的で、1、3年生を対象に「アチーブメントテスト」を実施します（TOEIC-IP®）。

#### 学習成果の活用（TOEFL®受験機会の提供）

留学プログラムに挑戦する動機づけを促すため、希望者にTOEFL-ITP®を無料で利用できる機会を提供します。

#### 全学的な英語教育のためのFD実施

さらなる英語教育の質向上のため、「英語教育FD委員会（仮）」を設置し、各学部と言語教育研究センターにおける取組や課題を全学で共有することを計画しています。

TOEIC及びTOEFLはエデュケーション・テストング・サービス(ETS)の登録商標です。この印刷物はETSの検討を受けまたはその承認を得たものではありません。



## 派遣・受入

### 日本人学生派遣

#### 協定ベースの派遣人数2,500人をめざす

学内で提供する留学プログラムの数を増やし、日本人学生の海外派遣人数を年2,700人（内大学間協定に基づく派遣2,500人）に増加させます。

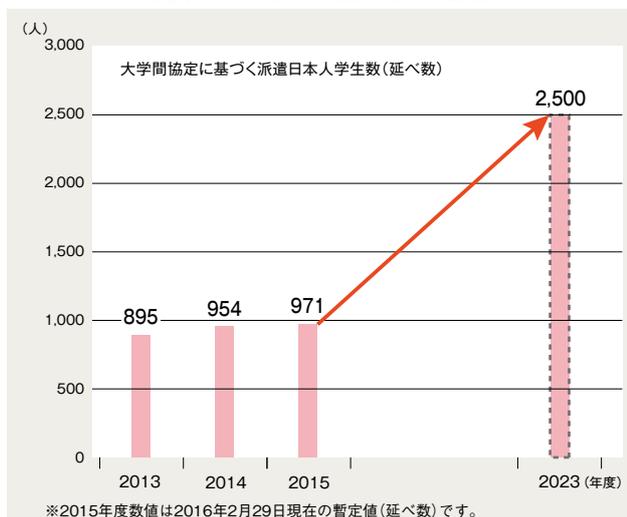
### 留学生受入

#### 海外からの留学生受入を年1,500人に

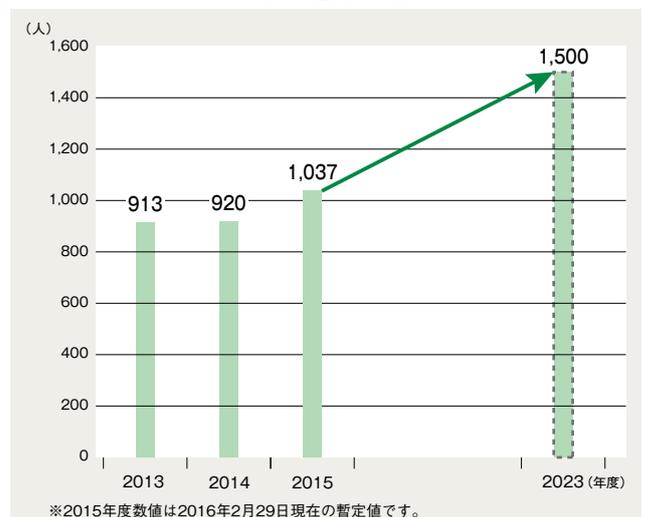
留学生受入プログラムや宿舍の拡充を行い、2023年度までに受入留学生数を2013年度時の1.6倍に増やします。

### 〈派遣・受入〉実績・目標

関学生 海外派遣人数の増加



外国人留学生数



## 国際交流の環境整備

### 交換留学生受入プログラムの改編

世界の協定大学から迎える交換留学生を対象に提供している「日本・東アジア研究プログラム」を改編し、2016年度秋学期から「現代日本プログラム」としてスタートさせます。新プログラムでは、現代日本の経済、ビジネス、社会、文化等を英語で学べる科目がより一層充実したものになります。また、従来必修となっていた日本語学習を選択履修制にすることで、多様なバックグラウンドをもつ留学生のニーズに対応することが可能となります。



### 混住型国際教育寮の拡充

留学生受け入れ環境整備の一環として、2つの寮の拡充を行いました。これらの寮は、日本人学生と外国人留学生の混住形式を採ることとし、両学生の異文化理解や交流活動を促進し、国際性を涵養します。

新たに建設した「清風寮」では、留学生1名と日本人学生4名の計5名が一組となって共同生活をしています。また、混住型国際教育寮「国際学生レジデンスⅣ」は、主に短期留学生受け入れを目的とした宿泊施設として、2015年8月から供用を開始しました。

【レジデンスⅣツイン個室】



【新清風寮ユニット共用部】

	内容	供用開始
(新) 清風寮	所在地：兵庫県西宮市上ヶ原 部屋数：60室(女子のみ。うち交換留学生分12室) 入寮費：10,000円/ Semester、寮費：32,000円/月、 諸費：8,000円/月	2015年4月～
国際学生レジデンスⅣ (旧清風寮)	所在地：兵庫県西宮市上ヶ原 部屋数：27室(ツイン25室、シングル2室) 寮費：(交換留学生)入寮費：10,000円/ Semester、 寮費：30,000円/月、諸費：5,000円/月 (短期利用)寮費：2,600円/日	2015年8月～



## ガバナンス・マネジメント

### ガバナンス改革による総合的マネジメントの実現

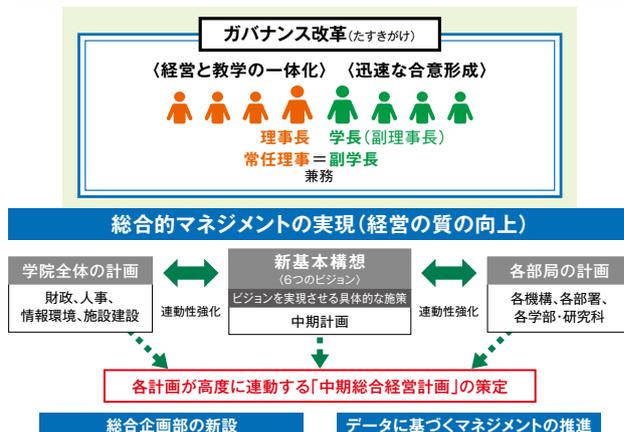
#### 総合的マネジメントの実現

本構想では、ガバナンス改革によって経営と教学が融合し、今後は将来構想(ビジョン)に基づく全学的な教学、財政、人事、施設建設、情報環境整備等の諸計画の水平連携を強めるとともに、各部署の計画と全体の計画・構想を連動させる「総合的マネジメント」を実現させます。

#### 総合企画部の設置

リーダーシップに基づく総合的マネジメントをめざし、理事長・学長を直下で支える部署として、2016年4月に総合企画部を設置しました。

#### ガバナンス改革による総合的マネジメントの実現



# その他国際化施策の取組み

## 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援 国連および国際機関・国際 NPO/NGO との連携強化

平成 24 年度文部科学省「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援(全学推進型)」に本学の「実践型「世界市民」育成プログラム」が採択されました。同プログラムは、2004 年から国連ボランティア計画(UNV)と協定を結び実施してきている「国連ユースボランティア(旧国連学生ボランティア)」をはじめとする本学の国際教育プログラムの成果と実績をさらに発展させることを目的としてつくられました。同事業への採択を機に整備・拡充された「国際ボランティア」(「国連ユースボランティア」を含む)では、プログラムの事前・

事後の学習指導にも重点を置き、派遣先で得られた学び・経験をさらに深いものにしていきます。

事業開始から 5 年目の 2016 年度は本プログラムの完成年次であり、これまで以上に国連、国際機関、NGO などとの連携を強化し、学生の学びの場を提供していきます。同年度には、新たに国際協力機構(JICA)との覚書に基づき、本学の事務職員と学生を青年海外協力隊(短期ボランティア)としてスリランカに派遣するプログラムもスタートします。

### ● 国際ボランティア(国連ユースボランティア・国際社会貢献活動)の派遣先(2004年度～2015年度)



### 関西学院大学国際ボランティアの実践が書籍になりました

関西学院大学が誇る国際ボランティアプログラムでは、これまでに 146 名の学生を開発途上国を中心とした各国に派遣してきました。派遣学生は、一人の自立した人間として日本とは全く異なった環境下で生活を送り、多様な国籍を持つ人々と働くことを通じて、さまざまな体験をしながら成長します。彼らがプログラムを通じて得た学びはもちろん、それを支える教職員のサポートや、厳しくも温かい教育姿勢などが一冊にまとめられています。本書は、馳浩文部科学大臣からの推薦を受けています。



#### 「実践型グローバル人材教育論 世界へ挑む君たちへ」

関谷武司(国際学部教授)編著  
関西学院大学出版会 232頁 2,000円+税  
2016年3月15日

## 大学の世界展開力強化事業

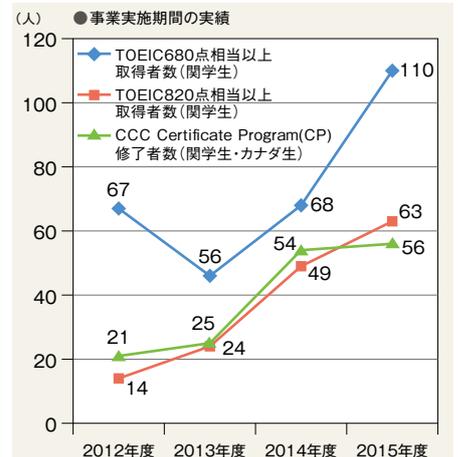
日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム「Cross-Cultural College(CCC)」は、平成 23 年度文部科学省「大学の世界展開力強化事業(タイプ B)」による補助金を活用し、本学とカナダの協定校 3 大学(マウント・アリソン大学、クイーンズ大学、トロント大学)と協働で運営するバーチャル・カレッジです。日加両国から参加する学生が、寝食をともにしながら課題を発見し、解決に向けて「協働」し学ぶことを通じて、多国籍な場面で活躍するための実践力を養います。同プログラムは、2015 年度末をもって文部科学省からの補助期間が終了しますが、学内では留学帰国後の上位プログラムとして本学学生の間で定着しつつあり、加えて、カ

ナダ 3 大学を含む学外からも高い評価を得ています。そのため、5 年間の協働運営を通してさらに強固となったパートナーシップをベースに、カナダ 3 大学とより一層の連携を図りながら、2016 年度以降も継続してプログラムを運営していきます。



赤坂 正樹  
(2016年3月商学部卒)  
CP修了/大手商社就職

CCCでは、他国の学生と協働し、目標達成をめざすことが求められます。留学経験がなかった私は、様々な価値観が混在するチームの中で、自分の価値を發揮できる機会はどこにあるのか、いかに成果に貢献出来るのかを常に模索していました。その過程で、「個々が持つ能力を有機的に結びつける潤滑油として、オンリーワンの存在になることが出来る」という考えを持つようになりました。それに基づき行動を起こすことで、環境に即して柔軟にポジショニングを変えることが出来るようになりました。就職活動においても、CCCを通じて培った力をアピールすることで高評価を得ることが出来ました。



※CCC Certificate Program (CP)とは、所定の16単位(使用言語は全て英語)とTOEIC820点相当以上の英語能力を証明することによって修了が認められるプログラムです。2015年度末までに、日加合わせて156名がCPを修了しました。

# 大学の戦略的施策に関する取組み

## 高大接続と連携の推進

関西学院がミッションとする「世界市民の育成」のため、高等学校教育と大学教育の円滑な接続と連携強化を図り、高い志をもつ生徒を獲得することを目的として、「高大接続センター」を2015年4月に設置しました。同センターには、「高大連携課」と「入試課」の2課を置いています。

高大連携課は、スーパーグローバルハイスクール(以下SGH)をはじめとする高等学校に本学の教員・大学院生・学部生・留学生を派遣し、教育支援事業を展開し連携を強化します。入試改革としては、SGHとスーパーサイエンスハイスクール(以下SSH)を対象とした公募推薦入学試験を実施し、全学部で英語外部検定試験を出願資格としたセンター利用入試を行っています。このほか、高大接続の取組みとして、SGH 課題研究発表会の実施、世界市民明石塾、国連ユースボランティア参加学生によるワークショップ、キャリアフォーラム「国際機関で働く」など、関西学院大学で実施するグローバルなイベントへの募集を含めて、高校生・高校教員が参加できる行事の企画・広報を全学横断的に行っています。



2015年7月実施高大連携企画  
マラウイ共和国行政官と高校生との交流会の様子

## 全学的アクティブラーニングの推進

2013年4月、神戸三田キャンパスに本学初のアカデミックcommonsが完成し、学生の自主学習空間としてだけでなく、様々なイベントを学生・教職員が一体となって展開する場となっています。また、2014年4月には、西宮上ヶ原キャンパスH号館にラーニングcommons「CReatE」がオープンし、連日、学生たちで賑わっています。同年11月には、新しく建て替えられた中央講堂内にもラーニングcommonsを設置しました。2017年度には、西宮聖和キャンパス内にも共同学習スペースが供用開始となる予定です。

大学では、「commons推進委員会」を立ち上げ、commonsを活用した全学的アクティブラーニングを推進しています。



## ボランティア活動支援センターの設置

「今こそあなたの“Mastery for Service”を」、阪神・淡路大震災直後、学生を中心とする救援ボランティア活動が開始された時の合言葉がこれでした。以後、キリスト教主義の体現のひとつとして、関西学院ヒューマンサービスセンターが活動を引き継ぎ、ボランティアに参加したい学生とボランティア団体の橋渡し役を担ってきました。

2016年4月、「関西学院大学ボランティア活動支援センター」が発足し、学生等によるボランティア活動を組織的に推進して参ります。



## 東京オリンピック・パラリンピック・スペシャルオリンピックスへの参画

関西学院大学は、2020年東京五輪・パラリンピック組織委員会と五輪教育の推進などを目的とした連携協定を結んでいます。また、東京パラリンピックへの参画に向けて、2015年12月、特定非営利活動法人STAND(代表理事：伊藤数子氏)と連携協力に関する協定を締結しました。STANDが大学と協定を締結するのは初めてです。本協定は、パラスポーツの普及、人材育成の分野で相互に連携を行うものです。今後、連携協力事業として、パラスポーツ普及を目的としたセミナーと連携講座の開講、パラスポーツにおけるリエゾンやボランティアの育成を行っていく予定です。



2015年12月の調印式の様子

## 初等部・中学部・高等部

初等部では、英語によるコミュニケーション力の向上を図るとともに、外部試験(英検)を導入し、その成果をモニタリングしています。英検は5・6年生全員、4年生は希望者が受験します。2015年度6年生卒業時の3級以上の取得率は26%となっており、同年度に行われた児童による「学校評価」においても、「英語は好きですか」の問いに対し69.7%が肯定的な回答をしています。

中学部では、2014年度に男女共学化の完成年次を迎えました。この間、初等部との学力面(算数—数学、英語—英語)での協力連携も実施しており、英語においては、小中英語教育に関する共同研究と学会発表を実施しました。ICTを活用したアクティブラーニングについては、読書科・英語科において、着実に進展しており、その成果検証を行っています。

高等部では、2014年度に指定されたSGH事業「国際化重点大学との高大連携による実践的課題解決能力の育成」の完遂を目指しています。

2015年度新たな取組みとして、海外・国内でのフィールドワークに参加した生徒によるポスターセッションやNEWS ZERO メーンキャスターで関西学院大学教授の村尾信尚氏による講演会等を実施しました。また、同年度に2回の成果発表会を行い、SGH校、SGHアソシエイト校関係者及び教育関係者に向けて成果を報告する機会を持ちました。

教育の活性化につながるICT環境についても、教室の無線LAN環境を整備していく予定です。



## 千里国際中等部・高等部

大阪インターナショナルスクール(OIS)と同一キャンパスに位置する千里国際中等部・高等部には、一般の生徒の他に多数の帰国生徒が在籍します。このような国際的な環境で、OIS生徒とのシェアードプログラム、学期完結制、無学年制など、生徒一人ひとりに対応するユニークな教育が行われています。

2015年度には、千里国際高等部の構想「高い国際通用性を有するレジリエンスに富むグローバルリーダー育成」がSGHの指定を受け、特に神戸三田キャンパスを中心とした関西学院大学との連携の中で、同事業を展開しています。

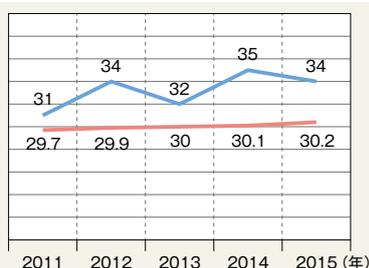
2016年度も引き続きこれらの強みを活かした教育活動を展開し、国際バカロレア(IB)日本語科目の提供やOISとのさらなる連携強化に向けた取組みを推進します。



## 大阪インターナショナルスクール

幼稚園から高校生を対象に、国際通用性の高い国際バカロレア(IB)プログラムに基づいた教育を展開しています。2016年度は、さらに幅広い国々に向けて生徒募集を行うため、海外広報を強化します。

### OIS生の国際バカロレア ディプロマプログラム(IBDP)平均点の推移



— 大阪インターナショナルスクール(OIS)平均  
— 全世界平均

※IB=International Baccalaureate(国際バカロレア)とは、国際バカロレア機構(本部ジュネーブ)が提供する国際的な教育プログラムです。  
※IBDPは45点満点。原則24点以上で国際バカロレア資格が授与されます。当資格およびスコアは、全世界の大学において、入学資格等として活用されています。



## 関西学院幼稚園（旧聖和幼稚園）

創立以来120年にわたって「キリスト教主義による一人ひとりの子どもたちが愛されていると感じられる保育」を大事にしています。2016年度は、子どもを取り巻く社会状況を勘案して、「今を生きる子どもにとってどうなのか」と問いながら保育実践の質向上に努めます。また、預かり保育・子育て相談・園庭開放・未就園児親子保育体験などの子育て支援もさらに充実させて、地域の「子どもの園」として運営していきます。



## 聖和短期大学

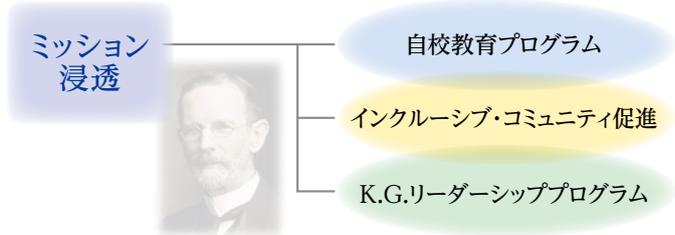
日本における保育者養成のパイオニアとして、キリスト教主義に基づく人間性を備えた「保育の専門家」を世に送り出しています。関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”を体現し、世界の子どもの幸せに貢献できる人を育てます。2016年度は、さらに魅力ある短大をめざし、入口、出口戦略を継続的に検討します。



法人・大学

## ミッションの学内浸透施策の推進

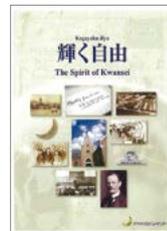
関西学院のミッションを構成員が理解し、その体現と実践を推進するため、「自校教育プログラムの展開」「インクルーシブ・コミュニティの構築」「K.G.リーダーシッププログラムの開発」の3つの活動を継続して進めています。



### 自校教育プログラム

スピリットブック「輝く自由」は、これまで全新生を中心に10万部以上が配付され、その成果は調査結果にも表れています。2016年度からは新たに英語版も加わり、より幅広くミッションの浸透・理解に努めています。

また、関学の歩みを多角的な角度から考察しつつ、学院・大学の理念やスクールモットーの理解を深めることを目的とする「関学」学を開講しています。2015年度からは神戸三田キャンパスでも開講しています。



▲輝く自由（英語版）

### インクルーシブ・コミュニティ促進

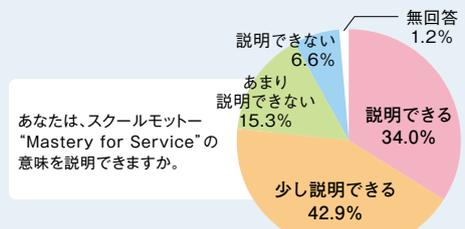
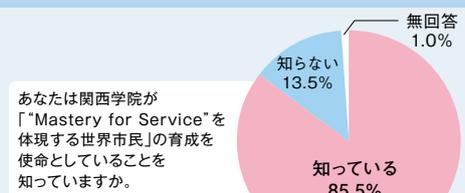
関西学院では、多様性を力とする「垣根なき共同体」を目指して、2010年9月に「インクルーシブ・コミュニティ構築」の宣言を行いました。関西学院に集うすべての人がこのことを意識し、様々な違いを尊び、それぞれの能力を発揮できる環境づくりに向けて努力していくことをめざしています。

これまでこの宣言文を全新生に配付し、説明を加えるとともに、人権問題等、関連する行事やイベントにおいても配付し周知に努めてきています。

### K. G. リーダーシッププログラム

“Mastery for Service”を体現する世界市民を育てることを使命とする関西学院として、世界で活躍していく際に必要かつ有効な、関西学院らしいリーダーシップのあり方を策定し、啓発していきます。今後、啓発リーフレットの配付、講演会やセミナーの開催によって推進していきます。

### 〈ミッション浸透施策の成果〉



（関西学院大学高等教育推進センター：カレッジ・コミュニティ調査2014）

### インクルーシブ・コミュニティ宣言 インクルーシブ・コミュニティ構築に向けて

〈前文〉

関西学院はミッションステートメントに基づいて、すべてのキャンパス（西宮上ケ原、西宮聖和、神戸三田、大阪梅田、東京丸の内、宝塚、千里国際）に、「多様性を力とする垣根なき共同体」、すなわち「インクルーシブ・コミュニティ」を創出し、維持し、発展させることをめざしています。関西学院に育まれていくこのコミュニティが、地域社会から国際社会に至るまでのあらゆる社会の包摂力の向上に寄与していくことを確信し、ここに関西学院のすべての構成員に連帯と協力の呼びかけを行うものです。

（以下省略）

詳しくは、本学ウェブサイトの関連ページをご参照ください。



## 就職

### ■全国240大学実就職率ランキング

卒業生・修了生5,000人以上の国公私立大学の中で  
**実就職率 3年連続No.1**

(2012年度卒業生・修了生～2014年度卒業生・修了生)

関西学院大学  
 2014年度卒業生・修了生 実就職率 88.5%

※実就職率=就職者数÷[卒業(修了)者数-大学院進学者数]×100  
 (サンデー毎日:2015年7月26日号)

### ■トップの出身大学ランキング

関西学院 54人	
全国順位	私立順位
10位	7位

※集計は各社へのアンケート結果に基づいている  
 ※トップとは社長、頭取、代表執行役、代表取締役など各企業の代表者  
 (東洋経済新報社:役員四季報 2016年版)

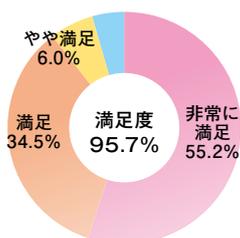
### ■有名企業400社の実就職率の推移



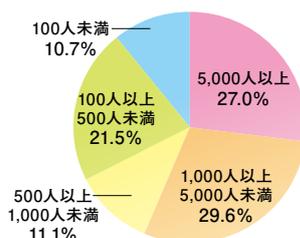
(サンデー毎日:2014年8月3日号, 2015年8月2日号)



### ■内定企業への満足度



### ■従業員規模別就職状況



(関西学院大学キャリアセンター:進路データブック2015)

## 国際化

### ■海外留学制度ランキング

関西学院	
全国順位	人数
9位	154人

※留学先の大学で取得した単位(16単位以上)が、帰国後、日本の大学で卒業要件として認定された学生数  
 (朝日新聞出版:大学ランキング 2016年版)

### ■高校の指導教員が選ぶランキング

国際化教育に力を入れている大学

関西学院	
2015年版 順位	2014年版 順位
7位	15位

(週刊ダイヤモンド:2015年11月7日号)

### ■協定等に基づく日本人学生派遣数の多い大学

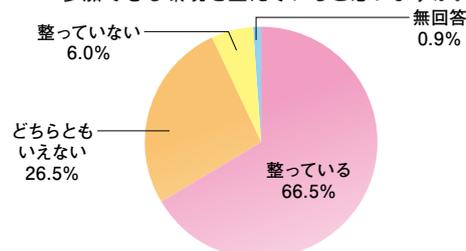
**全国第5位**



(日本学生支援機構(JASSO):協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果平成21～25年度)

### ■国際教育に関する在学生への意識調査

本学は、学生が海外プログラム(留学・語学研修などに)参加できる環境を整えていると思いますか。



対象:本学に在学する全学部生から系統抽出法により5分の1を抽出(留学中の学生除く、N=1,085)  
 調査機関:2014年5月30日(金)～6月30日(月)  
 ※上記の設問は当調査の一部です。  
 (関西学院大学高等教育推進センター:カレッジ・コミュニティ調査2014)

# データ編(イメージ)

受験生

## ■進学ブランド力調査

### 志願度

(関西エリアランキング)



### 知名度

(関西エリアランキング)



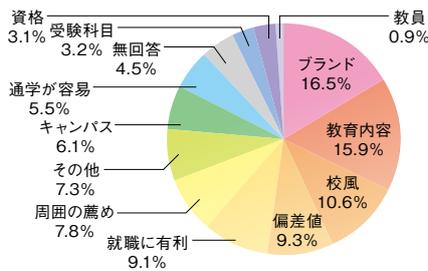
(2015年調査概要)

関東エリア、東海エリア、関西エリアの高校に通っている2016年3月卒業予定者(調査時高校3年生)計74,000名を対象とし、調査表を郵送、記入後郵送で回収(リクルートカレッジマネジメント:進学ブランド力調査 2015)

在学生

## ■イメージ・満足度に関する在学生への意識調査

あなたが関西学院大学に入学を決める際、最も重視した理由は何ですか。



高校生に戻って進学をするとしたら、関西学院を選択しますか。

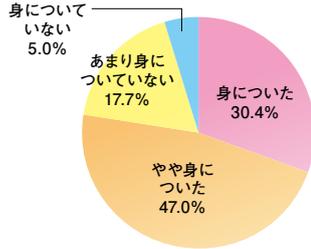


対象: 本学に在学する全学部生から系統抽出法により5分の1を抽出(留学中の学生除く、N=1,085)  
調査期間: 2014年5月30日(金)~6月30日(月)  
※上記の設問は当調査の一部です。  
(関西学院大学高等教育推進センター:カレッジ・コミュニティ調査2014)

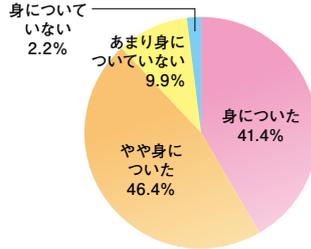
卒業生

## ■大学在学中の学びに関する意識調査

自ら学び続ける力



多様な価値観を理解し、尊重する力



対象: 卒業後5年(2010年)の本学卒業生(N=181)  
調査期間: 2015年8月1日~2015年9月30日  
※上記の設問は等調査の一部です。  
(関西学院大学高等教育推進センター:2015年卒業生調査)

## ■文部科学省等が行う教育・研究改革支援事業に対する本学の採択実績(過去5年)

- 大学**
- 平成23年度 大学の世界展開力強化事業 [タイプB-II: 米国以外の欧州、豪州における大学等との協働教育を行う交流プログラムを実施する事業]  
[日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム「クロス・カルチュラル・カレッジ」]
  - 平成24年度 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援(旧:グローバル人材育成支援事業) [タイプA: 全学推進型]  
[実践型「世界市民」育成プログラム]
  - 平成24年度 大学間連携共同教育推進事業 [タイプB: グローバル化率引型]  
[教学評価体制(IRネットワーク)による学士課程教育の質保証(北海道大学、お茶の水大学、琉球大学、大阪府立大学、玉川大学、同志社大学、甲南大学、関西学院大学 共同申請)]
  - 平成25年度 研究成果展開事業 センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム  
[感性とデジタル製造を直結し、生活者の創造性を拡張するフア地球社会創造拠点(サテライト機関として採択)]
  - 平成26年度 スーパーグローバル大学創成支援  
[国際性豊かな学術交流の母港「グローバル・アカデミック・ポート」の構築]
  - 平成26年度 高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム  
[「ハッピーキャリアプログラム」女性リーダー育成コース]
  - 平成26年度 科学技術人材育成費補助事業  
[女性研究者研究活動支援事業(連携型)(代表機関: 神戸大学)]
  - 平成24年度~27年度 戦略的研究基盤形成支援事業  
[SPRING-8を利用した量子制御に基づくグリーンイノベーション](平成24年度、理工学部 教授 水木純一郎)、「特殊生物の自己組織化能を利用した新規機能素子の開発」(平成24年度、理工学部 教授 松田祐介)、「機能性ナノ単一サイズ有機分子創製研究」(平成25年度、理工学部 教授 山田英俊)、「歩行における脳活動と筋活動の相関に基づく新しい健康維持促進とリハビリテーション技術の創生」(平成26年度、理工学部 教授 嵯峨直彦)、「情動概念の再構築: 心理学の新たな挑戦」(平成27年度、文学部 教授 片山順一)、「バイスター分子制御による未来型物質変換研究拠点」(平成27年度、理工学部 教授 羽村季之)
- 各学校**
- 平成26年度~27年度 スーパーグローバルハイスクール  
[国際化重点大学との高大連携による実践的課題解決能力の育成](平成26年度、高等部)、「高い国際通用性を有するレジリエンスに富むグローバルリーダー育成」(平成27年度、千里国際高等部)

# 近年の関西学院の動き





#### 西宮上ヶ原キャンパス（兵庫県西宮市上ヶ原）

関西学院大学 神学部・神学研究科、文学部・文学研究科、社会学部・社会学研究科、法学部・法学研究科、経済学部・経済学研究科、  
商学部・商学研究科、人間福祉学部・人間福祉研究科、国際学部・国際学研究科、言語コミュニケーション文化研究科、  
司法研究科、経営戦略研究科

関西学院高等部  
関西学院中学部



#### 神戸三田キャンパス（兵庫県三田市学園）

関西学院大学 総合政策学部・総合政策研究科  
理工学部・理工学研究科



#### 西宮聖和キャンパス（兵庫県西宮市岡田山）

関西学院大学 教育学部・教育学研究科  
関西学院聖和短期大学  
関西学院幼稚園



#### 宝塚キャンパス（兵庫県宝塚市武庫川町）

関西学院初等部



#### 千里国際キャンパス（大阪府箕面市小野原西）

関西学院千里国際中等部・高等部  
関西学院大阪インターナショナルスクール



#### 東京丸の内キャンパス（東京都千代田区丸の内）



#### 大阪梅田キャンパス（大阪市北区茶屋町）